

昨年11月に急逝された貝原俊民さんの連載「わが心の自叙伝」は、第12回でいったん終了となりましたが、その後、ご遺族の了解を

得て、残された28回分の草稿を順次紹介してきました。今回は完結となる第39、40回を掲載します。



5人の孫に囲まれて。後列右から3人目が貝原さん、前列右から2人目が妻節子さん＝2001年12月、大阪市内

39

わが心の自叙伝 貝原俊民

私の家族

私の自叙伝も、終わりに近づいたの
でここで、私の家族のことを紹介し
たい。

妻節子は、2009(平成21)年2
月に他界した。故人は、佐賀で少しは
名の通った造り酒屋「あかかべ」を営
む中島家で、父常次と母菊代の三女と
して生を受け、大家族の中でおおら
かに育った。

中島家では、後に妹が4人も控えて
いるので、短大卒業後はすぐに縁談を
進めていたようである。

私の両親も、60歳近くになって孫が
いなかったため、早く結婚することを
願っていた。

このようなことから、1959(昭
和34)年3月の初めごろ、2人は両親
の勧めでお見合いをし、皇太子(現
天皇陛下)のご成婚がその年と発表さ
れていたため、アレヨアレヨという間
に、「あやかり婚」となった。

彼女の得意な才は、童謡や唱歌を正
確な歌詞と節回しで歌うことで、専門
家も舌をまくほどであった。彼女の人
生設計はサラリーマンの妻として、子
や孫の成長を見届けながら、好きな歌
を口ずさんだり、洋服のデザインをし
たりして、自分なりに充実した人生を
過ごすことだったと思う。

社会に対して恩返しを

私の兵庫県知事選挙への出馬は、彼
女にとってまさに青天の霹靂だった
が、外見よりはるかに度胸が据わって
いた彼女は最終的に「こうなったら、
しょうがないでしょ」の一言で同意し
てくれた。

私は震災時の知事としてケジメをつ
けるため、任期途中で辞任することを、
彼女にはあらかじめ話をしていた。

その条件が整った2001年1月、
辞任することを彼女に伝えると、「や
つと辞められるのね」と言っ、とて
も喜んでくれたが、いままでの緊張が
とれたのか、2月に入ると急に体調を
崩し、その後は、家族や親しい友人た
ちに支えられながら、静かな療養生活
に入った。

「求める心は淋しい。与える心は豊
かだ」とか「生涯は二人で一人。剛雲
」といった言葉が気に入って、よく口
にしていたが、最期は、いつも通りの穏や
かな表情で、家族に囲まれながら何の
苦痛もなく静かに息をひきとった。

このような彼女の生涯を振り返ると
きそれは、私が自ら選んだ道を存分に
進むわがままを許容して、それを支え
てくれた人生であったと思う。私とし
ては感謝の念でいっぱいであると同
時に、申し訳ない気持ちにかられる。
ただ救いは、大勢の人にかわいがつ
てもらいながら生涯を送り、そして、
2人の息子が立派に育ったことを自ら
喜んでいるのではないかということ
である。

長男は、京都大学大学院工学研究科
を修了し、いまは神戸大学大学院教授
となっており、次男は、京都大学医学
部を卒業後、いま神戸市立医療センタ
ー中央市民病院の外科部長である。

孫は娘3人、息子2人の5人で、そ
れぞれ芸術、福祉、医学、工学の分野
に進んでいる。
私たちがご厚誼を賜った皆さまのた
めにも、息子たち一家の者が、社会に
対して少しでもご恩返しができること
を念じている。

兵庫県公館1階ロビーに置かれた
前県知事の貝原さんの胸像(手前)
＝神戸市中央区(撮影・峰大二郎)



40

エピソード

「国際社会において、名譽ある地位」
を占めたいとする日本国憲法前文に叶
うことになろう。

兵庫県政は、日本の高度経済成長期
にあっても、生活者の視点に立つて金
井元彦知事の「生活の科学化」、坂井
時忠知事の「生活の文化化」といった
施策が推進されてきた。

私はこのような兵庫県政の系譜を継
承して、県政の基本を、これまでの文
明が追い求めてきた武力や経済力とい
ったハードパワーではなく、人間が人
間らしく生きていくための「平和の技
術」といったソフトパワーの開発にお
いてきたつもりである。具体的には本
稿で述べてきた「こころ豊かな兵庫」
をめざす施策であり、「創造的復興」
の施策である。

「一人は万人のために 万人は一人
のために」

20世紀前半に神戸を中心として活躍
され、ノーベル賞候補にもなられた賀
川豊彦さんの有名な理念である。資本
主義や共産主義の弊害を乗り越えるた
めの友愛の政治経済学を提唱し、共生
社会の実現に献身された。

その思想の影響を受けた今井鎮雄さ
んや野尻武敏さんらが、兵庫県のオピ
ニオンリーダーとして活躍され、県民
意識の中に共生の哲学が醸成されて
いる。

私は、私の県政理念が、このような
兵庫県の土壌の中で育まれ、県民の皆
さまに広く支持されたことを幸せに思
う。ここで、県民の皆さまに衷心より
感謝の意を表したい。

最後に、私がお世話になった兵庫県
議会議員や県職員の方々に、さらに友
人は数知れず、本稿で記述できなかった
ことをご寛容賜りたく、よろしくお
願いして擲筆したい。

(かいほら・と)したみ(前兵庫県知事)

兵庫県政の系譜を継承し

先進国といわれる国は、フランスが
「人権思想」、イギリスが「議会制民
主主義」、アメリカが「自由主義経済」
をそれぞれ人類社会に提案して、敬意
を受けている。
日本が、高齢成熟化した地域社会を、
「共生の思想」を基本として、平和で
安定したものにすることができれば、